# 文芸欄

## 俳句

**紅梅会**（東灘区）
万緑の生きるよろこび風豊か　朋子
新緑を床に映して過去を消し　早智子
さくらんぼ種を飛ばすよ競技なり　美恵子
五月雨を背につけ嬉しい今日一日　比佐美
心地よきおしゃれ被る夏帽子　松子
季の移り風になびいて青芒　扶喜子
六甲山道一本の青芒　里子
春の山ひとまわりふくみており　恵

**宝愛句らぶ**（中央区）
ウクライナ待たれる願い春一番　和子
太極拳葉色空色日脚伸ぶ　悦子
みちのくや雪雪雪の悪魔かな　千枝子
啓蟄と知ってか子等の泥遊び　道子
白梅や見知らぬ老と笑み交わし　丘
異教徒も恵方向く節分の夜　和志

**梅の美会**（兵庫区）
雛の顔良くも悪しくも折紙に　藤井　歌子
手かがみの春の兆しに紅をさす　山田　朝子
春なかば米寿と記すカレンダー　粟野　富江

**高原ささゆり会**（北区）
村おこしの巡回バスや春野行く　笠井　照子
京の寺紅き振り袖弓をひく　尾崎　順子
主去り寂しがりしや虎落笛　シン　さん
蝋梅の香りひと枝持ち帰り　佐藤かなめ
春蝉の声はどこからブナの森　若林　節子
雪の夜狩りせぬ爪を深く切る　中井　裕子
ポケットに喉飴一つ春コート　松村二三枝

**ひまわり句会**（北区）
自慢げに見せる大根ひ孫の手　石井　敏子
薄氷や浮び居りたる水たまり　辻　寿賀子

**ひよどり台句会**（北区）
冬の朝透き通る空見上げたり　塩見　光子
冬薔薇ひかり求めて咲きにけり　田中　弘子
澄み渡る歌声響く震災忌。　中井　光子
福男歓喜うずまき息白し　筒井　豊子
手袋の五指真直に干しにけり　矢谷登美子

**北斗句会**（北区）
産土の結ひの習わし野火走る　黒田　久江
風花や津和野の町の赤瓦　久松　礼子
黄水仙行商列車の残り香　増田　嗣夫
春泥を撥ねずに歩く京夫人　秋山　弘之
城攻めの如く野焼きの火を放つ　岸下　正二
春とうく猫の足跡白き庭　松本　洋子

**見山台新樹会**（北区）
禅寺の初春の門あけ放つ　高石　勝行
学童の通う小路に雪だるま　松隈　弘子
寒波襲来パッチワークをちくちくと　貞永　弘子
暖かき正月なればうつらつら　藤田　和夫
卒寿嫗も門前だけの雪を掻く　佐溝満喜子
廃屋や山茶花一本ほこらしく　石本　宏一

**きらく句会**（西区）
梅開くここら辺りが良き高さ　森本　珠実
庭のねぎ野菜高騰祈りも祈り　尾上　正紀
春節や獅子は優しく頭噛む　喜田　弘征
草津路や湯畑でポーズ雪景色　大橋　治子
冬将軍めまいの原因見つからず　阪本　道子

◆個人
食卓に季節のたより木の芽和え　(東)　北田　建樹
早咲きの桜賞でし九十かな　(灘)　福井　悦子
石段を数えて敏馬初詣　(灘)　山上　幸子
祝はれし卒寿過ぎての雛の膳　(北)　馬場みつえ
里山の木々に雑じりて寒椿　(北)　山田キミ子
ひと目ごと愛を編み込む冬帽子　(須)　福本　和恵
竹林の黄葉優し凍てる朝　(垂)　大上　昭敏
幼な友繰りごと多く日向ぼこ　(西)　北野　公昭

## 川柳

**深江親交クラブ**（東灘区）
九十の顔姿見に母をみて　小田　節子
塀の上雀とメジロがランデブー　辻本美佳子
あげようよ苦学生にも年金を　津田　敦子
まん腹で五七五が浮かばない　津田　正江
花園や河を渡れば黄泉の国　東方　輝子
いつの間に傘寿を迎え驚いた　三島　茂子
鬼の面逃げるひ孫に頭がとぶ　森　和子
冬空にボールひびかせグランドゴルフ　森元　弘美
脳トレにストレス足まりトラウマに　村瀬　武子
曽孫きてジジババ嬉しえびす顔　林　芳一

**桂木ひふみ会**（北区）
ノンアルでごまかす辛さ情けない　荒木　宗Q
生ビール悔し涙と一気飲み　京念久美子
酔いしれて楽になるのか恋心　笹岡　淑子
帰省して久方振りの親子酒　杉尾　悦子
地位と恋二股かけて失墜する　大和ケント

**筑栄会**（北区）
美しいままでポトンと寒つばき　勢　似
大寒にお尻を出して内視鏡　かほう
酒飲めるか？心配顔の高校生　三　茶
これスズメ半分残せワシの飯　ポ　ン
笑うことそれが最高川柳部　かをる
無器用を笑顔でカバー生きてます　まさこ
妻出掛け取り出す酒のこの旨さ　あきら

◆個人
おっとっとつまづく床に段差なし　(東)　清水　育子
久し振り会った友等は皆通院　(東)　増田　芳之
経歴や学歴きかぬ云わないよ　(北)　かんいち
祝日の国旗掲揚見ないね　(北)　北野　利一
子供の日俺にもあったそんな日が　(垂)　小高　肇
八十二才生きた証に苗木植え　(西)　藤原　健二

## 短歌

**高原ささゆり会**（北区）
亡き人の面影胸に打つ鐘に
　淋しき思い解けて消え行く
幸せの時は止まりてもう三年
　流れし涙いつ止まるやも
骨になる笑顔も声もすべて消ゆ
　ひだまりの背の匂いだけ残し　箱守喜久子

**花山短歌会**（北区）
石が似合うツワブキ魅力その黄色
　小さなハチは水平飛行　南　久美子
パパに手を引かれて可愛い男の子
　片言うれし梅の咲くころ　中井　裕子
大根の使い残しを切り干しに
　亡き祖母に知るありがたき知恵
朝歩き駅のベンチでひと休み
　隣りの人と話の彈む　清水　恵子
午前中グランドゴルフ午後マージャン
　月曜日老友会はいそがしき　富田　夢助
咲き盛る枝垂れ桜のゆれる影
　時の間夫と庭にたのしむ　船崎めり子

◆個人
出合いより別離の多し歳経りて
　面影偲ぶ真夜中の酒　(灘)　上田　節子
年始から嬉しい知らせ孫息子
　ひ孫に会える元気でいよう　(兵)　大賀　清子
過去はもう戻ることなど出来ないが
　時折夢に昭和の頃が　(須)　江口　啓子
播磨灘の島に囲まれ海面浮く
　カキの筏に陽光のそそぐ　(垂)　堀江千生子
夢のこと友に話せばほいほいと
　共に夢見る楽しい時間　(西)　増田　當代

◆投稿募集◆
文芸欄への投稿をお待ちしています。皆さまの作品をお寄せください。
**作品、住所、電話番号、単位クラブ名、お名前**を必ずご記入ください。
**(投稿先)**
〒650-0016
神戸市中央区橘通3丁目4-1
KOBEシニアクラブ事務局「広報紙〇〇係」
FAX　341-8524
**※〇〇は(俳句・短歌・川柳・へなぶり)等**